



第 102 卷 総目次

平成 31・令和元 (2019) 年

第一〇二卷 第一号 特集 文明

特集「文明」によせて……………下垣仁志…一（一）

論説

文明の誕生……………渡部森哉…一（七）

ローマ帝国の「後継者」になること……………小林功…一（四〇）

清末中国の文明観転換と自己認識……………手代木有児…一（七五）

明治期瀬戸内塩業者の直輸出運動とアジア……………中川未来…一（一一三）

中国近現代における文明史観の受容と展開……………石川禎浩…一（一五二）

ドン・キホーテの夢……………酒井一臣…一（一八八）

【論説】

前三五〇年代、トラキアのオドリユサイ王国をめぐる政治・軍事情勢……………小河浩…二（二四五）

近代皇室における「乳人」の選定過程と変容……………森暢平…二（二七八）

ブルクハルトの『チチェローネ』とドイツ教養層のイタリア旅行……………森田猛…二（三〇九）

慶雲三年輪租折衷法と熟田……………本庄総子…三（三六七）

マフデーイーかく語りき……………角田哲朗…三（三九九）

近世初期徳川政権の親族政策について……………劉晨…三（四三九）

十九世紀琉球国の西洋語通事……………張子康…三（四七四）

ローマ帝政前期小アジアにおける文化資本	増永理考	四	(五六一)
清代、督撫による地方官人事からみる王朝統治の側面	山本	一	四 (五九九)
清代の「里程配流」	キム・ハンバク	五	(六八九)
ニューヨークの「イタリア統一運動」	林孝洋	五	(七二三)
東地中海世界と対抗宗教改革	藤田風花	六	(八一七)
一九二〇年代後半における中国関税改定問題と日華実業協会	藤井崇史	六	(八五四)

【研究ノート】

後漢代における外戚政権と尚書台	平松明日香	三	(五一〇)
中世後期における近江国葛川の領有体系	村上絢	一	四 (六二九)
東北地方のカリヤドという地名	青山宏夫	五	(七五七)

【書評】

網島聖著『同業者町の研究』	大森一宏	二	(三四四)
秋田茂編著『大分岐』を超えて	神田さやか	二	(三五〇)
下垣仁志著『古墳時代の国家形成』	川畑純	三	(五二九)
長谷川まゆ帆著『近世フランスの法と身体』	岸本美緒	三	(五三六)
池田嘉郎著『ロシア革命』	藤本健太郎	三	(五四三)
ジョイス・E・ソールズベリ著(後藤篤子監修・田畑賀世子訳)『ペルペトゥアの殉教』	豊田浩志	四	(六五一)
宮紀子著『モンゴル時代の「知」の東西』	大塚修	四	(六五八)

Lisa Yoshikawa *Making History Matter*.

Kuroiwa Katsumi and the Construction of Imperial Japan.....立花孝裕(六六六)

柿崎一郎著『タイ鉄道と日本軍』.....織田康孝(六七三)

アルフレート・ハーファーカーン著

大貫俊夫、江川由布子、北嶋裕編訳 井上周平、古川誠之訳『中世共同体論』.....渡邊裕一(七八二)

飯塚一幸著『明治期の地方制度と名望家』.....池田さなえ(七八九)

山中仁美著・佐々木雄太監訳『戦争と戦争のはざま』.....山口育人(七九六)

高橋秀寿著『時間／空間の戦後ドイツ史』.....紀愛子(八〇二)

妹尾達彦著『グローバル・ヒストリー』.....桃木至朗(八八八)

阿部美香著『歌川広重の声を聴く』.....長谷川奨悟(八九五)

小川道大著『帝国後のインド』.....村上衛(九〇二)

巽由樹子著『ツァーリと大衆』.....長縄宣博(九〇九)

【論文評】

Moderen Patronage — Mikropolitik in der Moderne Konturen und Herausforderung eines neuen Forschungsfeldes, von Engels, Jens Ivo und Köhler, Volker, in: *Historische Zeitschrift*, Bd. 309, Heft I, August 2019, S. 36-69.....佐々木博光(九一六)

【紹介】

岩田修一著『統合自然地理学』.....芝田篤紀(三五七)

石川禎浩著『赤い星は如何にして昇ったか』.....川口美柚(三五八)

加藤政洋著「大阪」……………重永 瞬：五（八〇九）

【会 告】

二〇一八年度史学研究会大会講演要旨（井野瀬久美恵「『帝国だったイギリスの過去』

と向き合う」・吉本道雅「前四世紀中国における歴史認識の変容」……………一（二二五）

二〇一八年度史学研究会大会・総会の記録……………一（二二八）

理事会・評議員会報告……………四（六八〇）

史学研究会役員……………四（六八一）